

令和2年度 施政方針

2月21日に開催された市議会本会議で、木山耕三市長が令和2年度の施政方針を述べました。その一部を抜粋して紹介します。(全文は市ホームページに掲載しています)



1. はじめに

昨年を振り返りますと、5月に元号が「平成」から「令和」となり、新たな時代の到来は希望や期待も新たにす年となりました。一方で、8月から10月にかけて、日本各地で豪雨や台風による甚大な被害が発生し、防災・減災対策の重要性を強く再認識させられた年でもございました。

本市におきましては、3月に国営備北

丘陵公園の累計入場者数が、平成7年の開園以来1千万人を突破、続いて4月には、葬儀機能を備えた庄原市斎場「和みの丘」が完成いたしました。また、9月には瀬戸内ブランドコーポレーションによる、古民家宿泊施設「長者屋」不老仙」がオープンするとともに、本市の特産品である「比婆牛」が和牛として中四国で初となる地理的表示保護制度「GI」に登録されました。



9月にオープンした古民家宿泊施設「不老仙」

ところでございます。そうした中、先般12月に議員全員協議会で報告しておりますとおり、11月下旬に日本郵政から本市へ「かんぼの郷庄原」の施設譲渡の打診がございました。すでにさまざまなご意見を頂戴しているところでございますが、今後とも、議員をはじめ市民の皆さんや関係団体の方々のご意見をお聞きし、最善の選択をしております。

2. 市政運営の基本方針

第1に、本市における最上位の行政計画であります「第2期長期総合計画」に基づく施策の推進でございます。

本市の将来像「美しく輝く里山共生都市」の実現と最重要課題である人口減少の解決に向け「自治・協働・定住」をはじめ「産業・交流」「環境・基盤・交通」「情報」「保健・福祉・医療・介護」「教育・文化」の5つの基本政策に基づく施策を実施することといたしております。新年度は長期総合計画・前期実施計画の最終年度となりますが、引き続き、計画的かつ着実な事業実施を推進してまいります。

続いて第2は、「庄原いちばんづくり」の進化に向けた取り組みでございます。

市長に就任して以来、「やっぱり庄原がいちばん」と思えるまちづくりを推し進めてまいりました。「地域産業」暮らしの安心」にぎわいと活力」を柱とした

施策・事業の展開により、比婆牛ブランドの復活、庄原米のブランドづくり、産科再開のほか、庄原市こども未来広場の整備、定住アクションプランの推進や庄原D.M.Oの設立に向けた取り組みなど、産業の振興や定住環境の充実、地域の活性化、にぎわいの創出に努めております。

今後とも将来の世代につなぐ、ふるさと庄原の姿を見つめ、夢と誇りの持つ「庄原いちばんづくり」を進めてまいります。

なお、こうした取り組みを進めるための基本となる財政運営につきましては、平成29年11月に「第2期持続可能な財政運営プラン」を策定し、歳入の確保と歳出の抑制により収支バランスを図りながら、選択と集中の徹底および新たな着想による、直面する課題の解決、将来の礎を築く重点施策の展開など、持続的・安定的な行政サービスを提供してまいります。

3. 庄原いちばんづくりの主要事業

●「地域産業」のいちばん

▼新たな可能性で切り開く持続的な地域産業の構築

和牛農家の経営安定化や転作等による水田の有効活用を進めるため、コントラクター組織の支援を継続すること、庄原産飼料用稲を活用した「和牛TMRセンター」の円滑な運営を図ります。

また、「森づくりアドバイザー」を引き続き活用し、森林経営管理制度の円滑

な実施と森林資源の適切な管理を推進することにより、庄原産材の価値を高めてまいります。

さらに市内の中小企業者に対して「創業や「研究開発」等の支援を行い、商工業の振興、地域経済の活性化を図ります。

▼地域資源を活用した新たな「食の魅力」ブランドディング

増頭やPR、取り扱い店舗の拡大に取り組むことで、GI登録の効果をさらに高め比婆牛のブランド化を進めます。また、全国のコンクールで高い評価を受けております庄原産「ブランド米」の販売促進等を支援することにより、庄原産米の知名度向上と高価格化により、生産拡大につなげます。



比婆牛の地理的表示保護制度(GI)登録



▼技術革新による産業モデルの構築と雇用基盤の確立

ドローンを活用した山林の除草作業の省力化実証実験をはじめ、IoT・AI等による地域課題の解決や市内企業活動の活性化、市外からの企業参入を促進します。

また、お試しオフィス「おいでん彩」を活用し、企業等が求めるニーズを把握するとともに、立地環境や生活環境等の紹介・体験を通じて、市内にサテライトオフィスを誘致し、働く場の創出と都市部からの移住促進を図ります。

さらに、企業の労働力の確保を図るため、市と市内企業等で組織する「庄原でいきいき働く協議会」において、企業ガイドブック作成や合同就職面接会等の取り組みを行います。

●「暮らしの安心」のいちばん

▼安心を実感できる子育て環境の整備

引き続き庄原赤十字病院における周産期医療の運営を支援するとともに、産後間もない産婦を対象とした健康診査を拡充します。

また、就労形態の多様化など、社会的変化に伴う保護者ニーズに対応するため、全域の病後児保育の拡充に向け、新年度では高野保育所に病後児支援室を整備するとともに、放課後の子どもより安全な居場所を確保するため、西城小学校放課後児童クラブ実施施設を学



初のグランプリに選ばれました。

こうした「比婆牛」ブランドの活用をはじめ、産品の付加価値を高めることにより、生産者所得の向上を図っているところでございます。

さらに、大手建材メーカーである株式会社ウッドワンとの「庄原材活用のための連携協定」締結に基づき研究会を設置しており、今後、庄原産材の付加価値を高めるとともに、森林・木材と親しむ機会を創出することで、林業の振興を図ってまいります。

こうした取り組みの結果、本市への移住定住支援策を利用した移住者は増加しており、定住支援アクションプランで設定した230人の目標に対し、平成30年度で271人となり、前倒しで目標を達成したところでございます。

さらに、社会動態では近年の減少率は縮小の傾向となっているほか、直近の合計特殊出生率は、県内市で最も高い1.79となるなど「庄原いちばんづくり」による成果に、手応えを感じているところでございます。

引き続き令和2年度におきましても、地域課題の解決と地域活力の創造により「庄原いちばんづくり」に掲げる取り組みを推し進めてまいります。

まず、県内有数の森林資源を生かした「22世紀の庄原の森林づくり」でございます。このビジョンを基本に、本市の豊かな森林資源を生かし、次世代につなげていくために森林経営に関する方向性や新たな担い手を育成する施策、さ



さらに、新焼却施設の整備につきましては、将来にわたる快適な生活環境の維持と効果的かつ効率的なごみ処理を行うため、令和4年春の供用開始に向け、プラント建設を進めます。

▼次代を活躍・牽引できる人材の育成

引き続き外国語指導助手および地域人材の活用により、小学校ならびに中学校における外国語教育の充実を図ってまいります。

●「にぎわいと活力」のいちばん

▼人口ビジョンに基づく将来人口維持と地域課題解決への挑戦

令和2年度で「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を見直すこととしており、平成28年3月に策定した定住支援アクションプランの見直しとあわせ、定住促進支援策を展開してまいります。

▼新たな「にぎわいの潮流」の創出

庄原市民会館、庄原自治振興センターの大規模改修に向け、新年度では実施設計を行い、令和4年度の完成に向け取り組みます。

また、国営備北丘陵公園北エリア無料開放の社会実験を継続することで、子育て世代を中心としたにぎわいの創出や、広域的な観光誘客を強化し、交流人口の拡大による地域活性化を推進します。

さらに、上野総合運動公園陸上競技場につきましては、第3種公認施設に対応したトラック全面改修およびルール改正に伴う競技用備品の整備ならびに



株式会社ウッドワンとの協定締結

庄原材活用のための連携協定

らには森林の多面的機能の発揮による地球環境保全等への貢献などを盛り込んだ「22世紀の庄原の森林づくりプラン」を策定いたします。

具体的には、庄原材の活用研究を進めるとともに、豊富な森林資源を有する本市の特性や強みを生かすため、比和の旧古頃小学校の校舎を森林に関する体験や啓発のための拠点施設として整備し、さまざまな体験プログラムを提供することで、林業の担い手の育成、子どもも森林体験など、庄原の森林・林業の魅力づくりを進め、22世紀を生きる次世代の皆さんへ庄原の森林を引き継いでまいります。

つづいて、妊娠・出産・子育て期における若年世代、子育て世代の支援の充実でございます。市内で出産できる体制の維持・継続に加え、4月に庄原市子育



庄原市子ども未来広場の完成

メインスタンド防水工事を実施することにより、公式大会等を継続的に開催できる環境を維持いたします。

▼多様な地域資源を結び、輝かせる連携軸の構築

「庄原DMO」の本年4月の設立に向けた調整・協議を進めており、今後、観光交流の産業化による地域経済の活性化に向け、マーケティング・プロモーションの強化、着地型観光の推進などに取り組みます。

また、「比婆いざなみ街道マラニック」を継続し、交流人口と関係人口の拡充を図るとともに、近隣市町との広域連携による地域の魅力を発信するための「新たな街道」づくりを通して、圏域へのさらなる観光誘客と地域活性化を進めてまいります。

て世代包括支援センター「ほのぼのネット」を設置し、体制の強化と事業の新設・拡充を予定しております。

特に出産から間もない産婦の皆さんの不安を和らげるため、出産前から世帯を訪問する妊婦訪問事業、出産後における産婦健康診査の拡充、乳児家庭全戸訪問のほか、電子母子手帳による情報発信など、相談対応の機能と機会を確保し、一人一人に寄り添った子育て支援を進めます。

さらに令和2年度は市制施行15周年、中国四川省綿陽市と友好提携を締結して30周年、東京オリンピック・パラリンピックが開催されるなど、節目の記念の年を迎えます。

市制施行15周年では市民の一体感の醸成、市民協働のまちづくりを一層推進いたします。また、綿陽市友好提携30周年では、「市民参加」を念頭に記念式典や記念事業を実施する予定といたしております。そして、市内でオリンピックの聖火リレー、パラリンピックの採火式を行い、オリンピック・パラリンピックを身近に感じ、機運を高めるとともに市民の絆を深め、本市の活性化を図ってまいります。

こうした取り組みにより、市民の皆さんが庄原に生まれ住み、ふるさと庄原を誇りに感じていただくため、私たちが「やっばり庄原がいちばんええよ」と思えるまちづくりを実現してまいります。

最後になりますが、この庄原には、豊

かな森、清らかな水、おいしい農畜産物など、多くの地域資源「宝」がございます。こうした地域資源を磨き、そして、次世代に引き継いでいく使命があるものと強く認識いたしております。

新年度におきましても市民の皆さんに寄り添い、次世代に引き継ぐ「未来の里山づくり」と、夢と誇りの持てる「庄原いちばん」の実現に向け、市政を預かるものとしての責務を精力的に果たしてまいります。

議員各位、ならびに市民の皆さんのご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。私の施政方針いたします。



4. おわりに

令和2年度は庄原市長として2期目の最終年度であります。私は市長に就任して以来「地域産業」暮らしの安心」「にぎわいと活力」を柱とした「庄原いちばんづくり」に取り組み、夢と誇りの持てる「庄原いちばん」の実現に向け、「やっばり庄原がいちばん」と思えるまちづくりに傾注してまいりました。

これまでの施策の一端を申し上げますと、新市誕生と同時に市内での産科が休止となつて以降、悲願でありました産科の再開が平成30年春に実現いたしました。また、小児科診療所・病児病後児保育施設、庄原子育て支援施設から成る「庄原子ども未来広場」を整備するとともに、西城保育所も本年度完成予定としており、子どもを産み、育てる環境の充実を図ってまいりました。

また、国営備北丘陵公園北エリア無料開放の社会実験による新たなにぎわいの創出や、本市農畜産物のブランド化では庄原ブランド米が多くのコンクールの優秀な成績を獲得したほか、広島牛として統一され使用されていなかった「比婆牛」のブランドを復活させるとともに、和牛としては中四国で初となるGI登録を実現いたしました。

「比婆牛」につきましては、2月4日にNEXCO西日本などが開催した「西イチグルメ決定戦」において、七塚原サーブエリア上り線で提供されている比婆牛を使ったメニューが、中国地方